



光星ナイン

小技警戒 実戦練習

第100回甲子園あす開幕

第100回全国高校野球選手権は5日、開幕する。11日午前10時半試合開始の1回戦で明石商(西兵庫)と対戦することが決まった本県代表の八戸学院光星ナインは3日午後、奈良県香芝市の大阪商業大学・関屋グラウンドで、現地入り後初の実戦形式の練習に臨んだ。

この日の同市は最高気温が36度に達する猛暑。ナインは小まめに水分補給しながら、約2時間に現地入り後初の実戦形式の練習で鋭い打球を放つ八戸学院光星(武岡)3日午後、奈良県香芝市の大阪商業大・関屋グラウンド

守備陣は次の塁を狙う走者。動きを意識しながら、丁寧なプレーを心掛けた。投手は、バントなどの小技を多用した野球を得点とする。試合形式の練習で光星ナインは主戦の福山や左腕の成田を投手に立たせ、約1時間半にわたって打ち込んだ。仲井監督から「相手はスモールベースボールをしてくる。隙を見せるな」とのけがが飛ぶ中、

俊足で「役割果たす」

「甲子園に出場するまで実家には帰らない」と心に決め、1年以上帰省していない。「家族に活躍している姿を見せたい」とテレビ中継のある甲子園への思いは強い。「与えられた役割を果たしてチームの勝利に貢献する」と静かに闘志を燃やす。

(沖縄県・古蔵中出身、166センチ、68キロ、右投げ左打ち)



島袋 翔斗 内野手(2年)

小柄な体ながらチーム屈指の俊足が持ち味。広島東洋カープの菊池涼介選手が目標で「足(の速さ)とアグレッシブな守備で見る人を魅了した」

光星 甲子園だよりの

「甲子園に出場するまで実家には帰らない」と心に決め、1年以上帰省していない。「家族に活躍している姿を見せたい」とテレビ中継のある甲子園への思いは強い。「与えられた役割を果たしてチームの勝利に貢献する」と静かに闘志を燃やす。

各選手の出身高校が所在する都道府県代表チームの試合前に約15秒間の映像を流す。光星学院高(現八戸学院光星高)出身の巨人の坂本勇人内野手、岩手・花巻東高出身の西武の菊池雄星投手、大阪桐蔭高出身の日本ハムの中田翔内野手、広島商高出身のソフトバンクの柳田悠岐外野手が加する。選手会の企画「高校野球は僕らの原点だ」の一環で、選手会の公式会員制交流サイト(SNS)でも5日から配信する。